

### 3 件の事象の概要

#### < 誤信号による非常用炉心冷却系の作動 >

原子炉停止中に非常用炉心冷却系に信号を送る系統の点検を実施していたところ、計装ラック内の弁操作を誤ったため、実際には原子炉の水位が低下していなかったにもかかわらず、平成 21 年 2 月 19 日 23 時 37 分頃、非常用炉心冷却系(炉心スプレイ系)が誤信号により作動した。

本事象に伴い、原子炉内に水が注入され、原子炉の水位が上昇、約 6 リットルが原子炉格納容器内に漏えいした。

なお、原子炉格納容器外への水の漏出および外部への放射能の影響はなかった。

(平成 21 年 2 月 20 日、3 月 11 日お知らせ済み)

#### < 残留熱除去系 (B) 系統圧力の上昇 >

原子炉起動前の平成 21 年 3 月 15 日 11 時頃、残留熱除去系 (B) ポンプ出口圧力計の点検を実施したところ、残留熱除去系 (A) 停止時冷却モードによる運転時の伝熱により系統内の水温が上昇し、それに伴い隔離した残留熱除去系 (B) の一部に最高使用圧力を超える圧力が加わっていたことを確認した。

直ちに系統内の圧力を抜き、通常圧力に戻すとともに、最高使用圧力以上の圧力が加わった範囲について、健全性評価を実施し、問題のないことを確認した。

(平成 21 年 4 月 10 日お知らせ済み)

本事象は、残留熱除去系 (B) ポンプ出口圧力計の指示値が振り切れていることについて、実際の圧力上昇ではなく計器の故障と誤った判断をしたものである。

#### < 原子炉起動中の操作していない制御棒の挿入 >

平成 21 年 3 月 18 日 16 時 00 分に原子炉を起動し、3 月 23 日 5 時 00 分に発電を再開した。

その後、出力を徐々に上昇し、同日 6 時 25 分より電気出力 10 万 5 千キロワットで保持中のところ、同日 11 時 28 分に 89 本ある制御棒のうち 1 本の制御棒(以下、「当該制御棒」という。)が操作していないにもかかわらず、全引抜位置から全挿入位置に移動する事象が発生した。

本事象は、原子炉起動過程において、制御棒を 1 ノッチずつ引抜く操作を実施した際に 2 ノッチ引抜ける事象が確認された 3 本の制御棒のうち当該制御棒駆動水圧系の空気抜き作業を行っていたために発生したものである。

本事象に伴い、電気出力が 10 万 5 千キロワットから 10 万キロワットに低下した。

なお、原子炉圧力および水位の有意な変化はなく、外部への放射能の影響はなかった。

(平成 21 年 3 月 23 日、4 月 3 日お知らせ済み)